

No.	21	分類	2-(1)-ア	資料名	平和な世界をめざして	学年	6年	領域	総合的な学習の時間
-----	----	----	---------	-----	------------	----	----	----	-----------

1 ねらい

- 戦争に起因する子どもをめぐる様々な人権課題についての理解を深め、世界平和の実現に貢献しようとする意欲を高める。

2 活用上の留意点

- 現在世界に起こる争いとその背景を理解し、「平和のないところに人権は存在し得ない。」(地域改善対策協議会意見具申(平成8(1996)年5月)ことを感じとらせ、平和な世界の実現のために何ができるのかを考えさせたい。
- 人々を救う国際的なさまざまな活動があることを理解し、活躍をする日本人が多くいることを知り、自分もできることを実行していこうとする気持ちをもたせたい。

3 掲載資料に関する参考事項

○ 今日の世界の紛争

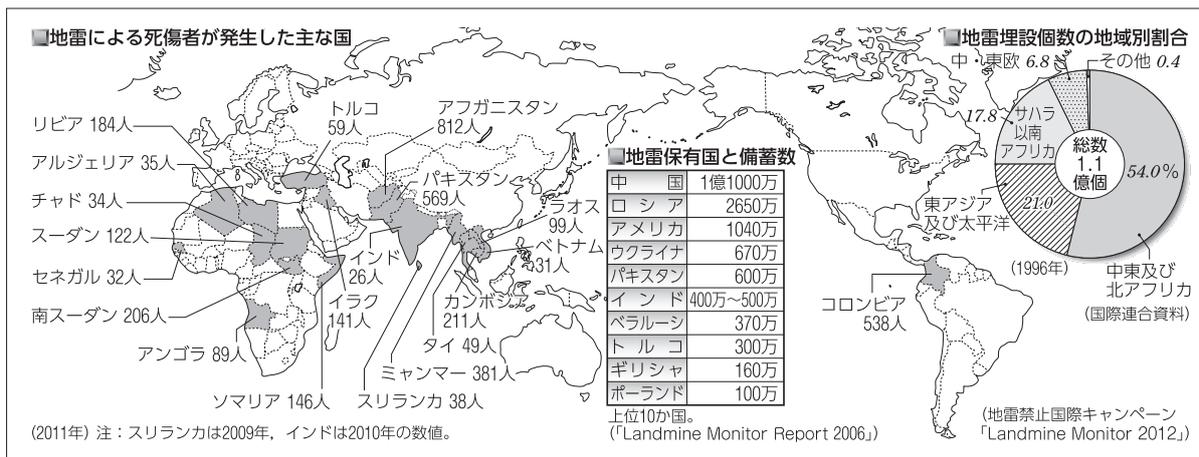
冷戦後、「国家対国家」ではなく、地域紛争が増え、テロも多発している。

人々が争う原因として、民族や部族の対立、宗教の対立、領土や資源争いなどがあるが、その背景として「貧困」がある。紛争の多いアフリカ・アジア・中東地域は、他の地域と比べて平均寿命も短い。争いをなくすには、「貧困」をなくすこともポイントになる。

○ 地雷について

現在世界中に1億1000万個の地雷が埋設され、20分に1人が地雷の犠牲になっている。戦争中にばらまかれた地雷は戦争後も残り続け、民間人を傷つける。地雷は命を奪うことではなく、大けがをさせることを目的につくられるため、被害者は手足を失い、一生苦しむこととなる。地雷は最低3ドルで買うことができる一方、地雷1個の除去には300～1,000ドルかかり、今のペースでは、地雷の完全な除去には、数百年かかるといわれる。(国連人道問題局による地雷に関する参考資料から)

冷戦後の世界	
1989年	ベルリンの壁が崩壊
1990年	東西ドイツの統一
1991年	湾岸戦争 ソ連解体
1992年	ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争
2001年	アメリカで同時多発テロ 連合軍がアフガニスタン空爆
2003年	米英軍がイラクを攻撃
2004年	スペインで列車爆破テロ
2005年	ロンドン同時多発テロ
2008年	ロシアがグルジアに侵攻
2011年	アメリカ軍がイラクからの撤退を完了



資料提供: 浜島書店

○ 国際連合児童基金(ユニセフ)

1946年、第二次世界大戦によって被害を受けた子どもたちを助けるために、国連によって、国際連合国際児童緊急基金がつけられ、戦災国で援助活動を始めた。1949年から1964年までの15年間にわたり、日本の子どもたちも給食用の粉ミルク(脱脂粉乳)や薬、服の原料(原綿)などの支援を受けている。1953年には国際連合児童基金と名を改め、活動の中心を開発途上国の子どもの支援に移している。活動資金はすべて募金で、その3分の2は各国政府から、3分の1は民間からの募金による。

○ 支援活動や国際平和のために取り組む人々

- ・ 黒柳徹子氏は、1984年からユニセフの親善大使となり、20か国以上のユニセフ活動の現場を視察し、2000年ユニセフにより「子どものためのリーダーシップ賞」最初の受賞者に選ばれた。
- ・ 緒方貞子氏は、国連難民高等弁務官事務所の高等弁務官として、難民に関するさまざまな問題の解決に尽力した。
- ・ 明石康氏は、日本人国連職員の草分けであり、1992年、国連カンボジア暫定統治機構事務総長特別代表に就任しカンボジア和平につとめ、1994年には、旧ユーゴ問題担当・事務総長特別代表として紛争収拾に取り組んだ。

○ 100円でできること（1ドル80円：2013年1月現在）

ポリオワクチン4人分、経口補水塩（脱水症状から体を守る）17袋など
また、240円でウールの毛布が1枚贈れる。
（日本ユニセフ協会「子どもと先生の広場」<http://www.unicef.or.jp/kodomo/>）

4 展開例

【導入】 戦争で苦しむ世界の子どもたち。

<ねらい>
平和のないところに、人権は存在しないことを理解する。

<活動>
・ 文章や写真から、戦争時の子どもについて考える。

【研究課題・活動課題の例】

・ 『戦争で苦しむ世界の子どもたち』を読んで、感じたことを話し合ってみましょう。

・ 世界で起きている紛争について調べてみましょう。

【展開1】 現在も多くの人が地雷によって傷つけられている。

<ねらい>
戦争が終わっても地雷による被害が続いていることを理解する。

<活動>
・ 地雷がもたらす被害について調べる。

【研究課題・活動課題の例】

・ 地雷廃絶日本キャンペーンや対人地雷全面禁止条約など、地雷廃絶に向けた世界のさまざまな取組について調べてみましょう。

【展開2】 人々を救うさまざまな支援活動。

<ねらい>
戦争の被害を受けた人々を救うため、さまざまな支援活動が行われていることを理解する。

<活動>
・ ユニセフなどの歴史や活動について調べる。

【研究課題・活動課題の例】

・ 日本の子どもたちもユニセフに助けられたことがあるのを知っていますか？

・ ユニセフや国境なき医師団以外にどのような支援組織があるかを調べてみましょう。

・ 支援活動に貢献している人々について調べてみましょう。

【展開3】 わたしたちにできること。

<ねらい>
自分たちにできることを考え、行動しようとする気持ちをもつ。

<活動>
・ ユニセフの募金がどのように役立っているか調べる。

・ 自分たちに何ができるか話し合う。

【研究課題・活動課題の例】

・ 身の回りで、自分たちにできることを考えてみましょう。

・ 調べたことをまとめて、学校や地域で発表してみましょう。